

令和7年度

長原学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自分の思いや考えを伝えて、主体的に学び、行動する子どもの育成
～言語活動の充実をはかり、さらなる深い学びをめざして～

校長

尾形 徳康

学力向上推進員

西條 美恵子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や校内研修、児童や保護者のアンケートにより、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個別の指導や少人数での学習を重ねた結果、基礎的基本的な知識・技能の定着がはかれている。 ●時間の経過とともに、定着率が下がり、単元によっては、目標値に達していない児童がいる。	・当該学年での算数・国語・社会・理科における基礎的・基本的な知識や技能について90%以上の習得を目指す。 ・身につけた知識や技能を積極的に他の学習や、生活の場面で活用することができる。	・教師間で、児童一人一人の資質・能力・課題について綿密に話し合い、適切な授業改善を図る。 ・Eライブラリーを活用する等、タブレットを使って、個別学習できる場面を設定する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを基本的な文型や話し方に沿って、順序立てて発表することができる。 ●自分の考えを相手に応じて分かりやすく伝えたり、相手の意見を聞いて新しい考えを想像したりすることに課題がある。	・必要な情報を正確に聞き取り、根拠をもって自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 ・学習の習得・探求・活用の場面において、ICT機器等を適切に活用し、言語環境をより実践的なものにする事ができる。	・ICT(生成AI含む)等の活用で、表現力や情報処理能力の育成を図るだけでなく、思考力や判断力も高められるような教材作りをする。 ・「聞きたい」「伝えたい」という学習活動(ペア学習やグループ学習)や、交流学习等で表現する実の場を増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分に必要な内容を考えながら、主体的に取り組むことができる。 ●自分が興味をもつ内容について、さらに深く学んだり、自ら課題を設定して計画的に意欲的に学習を進めたりすることに課題がある。	・自分のめあてを明確にもち、より高い目標をもって主体的に課題に取り組むことができる。 ・自分の状況を振り返りながら課題と向き合い、計画的に解決策を考えたり、意欲的に課題に取り組めたりすることができる。	・ICT機器等を主体的に、持続的に児童が使うことで、自分の目標や課題を明確にし、より高い目標に挑戦することができるように支援する。 ・一人一人の興味関心や課題を把握した上での学習過程を構築し、「振り返り」「まとめ」を計画的に実施することで、自律的に学ぶことができるように支援する。			